創立120周年記念 壁新聞 2016.10月号

~120th Anniversary Wall Newspaper~

誠のあゆみ、未来へつなぐ

創設者三田俊次郎を支えた三浦家の存在

創設者　三田俊次郎
私立岩手病院開設当時

岩手医科大学は今を遡ること120年前、明治30年4月20日に私立岩手病院として産声を上げました。創設者は当時34歳の眼科医、三田俊次郎。翌5月には岩手病院の中に現医学部の原形とも言える「医学講習所」を開設し、医学教育が開始されました。岩手病院は旧県立岩手病院の敷地・建物を岩手県から借り受けて開設されたのですが、その陰には、三田俊次郎を支えた三浦家の人々の存在がありました。

― 俊次郎の義父・恩師　三浦自祐 ―

文政11年（1828）9月25日、和賀郡飯豊村の医師及川立基の三男として生まれる。南部藩士三浦家の養子となって市内八日町に開業するが、南部家に抜擢されて任官し、命により京都の蘭学医新宮涼民（しんぐうりょうてい）の下で医学の研鑽を積む。京都から盛岡に戻り、盛岡藩の御脈医から奥医師に累進する。また、八角高遠（やすみたかとう）、大島高任（おおしまたかとう）らと共に近代的洋学教育の学校「日新堂」の開設に尽力するほか、日新堂が閉鎖された後には私財を投じて医学教育の私塾「回生堂」を開き、正露丸を開発した中目成一（なかのめせいいち）など、幾多の有能な人材を育てた。三田俊次郎は回生堂で学び、自祐の高弟であった。

三浦自祐（みうらじゆう）
文政11年(1828)～明治44年(1911)

私立岩手病院　副院長
三浦直道（みうらなおみち）
明治3年(1870)～昭和23年(1948)

三浦自祐の長女利佐は三田俊次郎と結婚、また長男三浦直道は私立岩手病院副院長であり、俊次郎と直道は義兄弟の間柄でした。直道は仙台の第二高等中学校医学部医科を卒業し産婦人科医となった俊才ですが、岩手病院開設計画に際して父自祐は「誠心誠意、俊次郎を支えよ」と厳命したと伝えられています。直道はその言葉通り、明治40年10月に岩手病院を辞するまでの10年間、診療の傍ら病院の医務全般を切り盛りし、さらに、医学講習所とその後の岩手医学校の講師も兼ねて、正に八面六臂で兄俊次郎を支えたのです。また、岩手病院の開設に必要な資金は、利佐が父自祐に援助を申しいれたとされています。岩手医科大学の創設者は三田俊次郎その人ですが、その淵源たる岩手病院の開設、そしてその後の発展については、三浦家の人々を抜きにしては語ることが出来ないのです。

※写真提供三浦家

【発行・お問い合わせ先】
岩手医科大学企画部　創立120周年記念事業事務室
TEL：019-651-5110（内線：7022）
E-mail：anniv@j.iwate-med.ac.jp
WEB：http://iwate-med-120th.jp/

創立120周年まで
あと192日

Iwate Medical University 岩手医科大学　発行年月日　2016.10.10